

訪日中国人旅行者急増の背景

ポイント① 足元も減速感は見られず

11月18日発表の日本政府観光局資料によると、10月に日本を訪れた中国人旅行者数は前年同月比+99.6%の445,600人で、10月としては過去最高を記録しました。年初からの累計は428万人に達し、全訪日外国人旅行者の4分の1超を占める結果となりました。

中国経済の減速や夏場の中国株式市場の急落を受け、「爆買い」と称されるほど購買意欲の高い訪日中国人旅行者への影響が懸念されていましたが、今のところ、減速感は見られません。

ポイント② 中間所得層の拡大が背景

訪日中国人旅行者急増の背景には、中国における中間所得層の拡大があります。

中国に進出する日本企業の間では、1人当たりGDP(域内総生産)が1万米ドルを超えると、日本の製品・サービスに対する需要が飛躍的に高まると言われています。第一級行政区画(省・自治区・直轄市)別に中国の1人当たりGDPを見ると、2014年時点で、9つの地域(内モンゴル自治区を除きいずれも沿海部)で1人当たりGDPが1万米ドルを超えています。いずれも2010年以降に1万米ドルを超え、現在、これらの地域に住む人口の合計は4億人超、中国全人口の3割程度となっています。中央政府の方針もあり、まずは沿海部から発展を遂げた中国経済ですが、今後は内陸部の発展・中間所得層の拡大が見込まれます。

ポイント③ 今後も持続的な増加が見込まれる

足元急増している訪日中国人旅行者ですが、アジアにおける目的地としての日本の地位は、韓国、タイ、台湾に次ぐ第4位にとどまっています(2014年時点)。

また、2014年の観光庁調査によると、訪日中国人観光客の訪日回数は、1回目が7割超を占めています。「また日本に来たい」と思わせるだけの訴求力があれば、今後はリピート需要も期待できます。

中国の中間所得層の拡大に加え、ハード・ソフト両面から日本の魅力を訴求し、旅行先としてのシェアアップやリピート需要の取り込みが図れば、訪日中国人旅行者は持続的に増加していくでしょう。

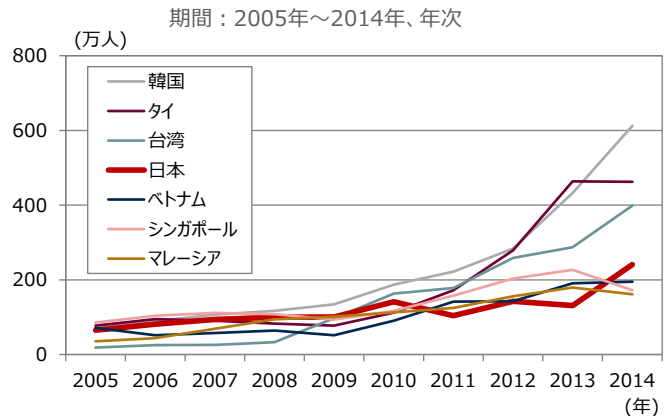
図1：中国第一級行政区画別1人当たりGDPと人口

名称	2014年の1人当たりGDP(米ドル)	2014年末の人口(万人)	1人当たりGDPが1万米ドルを超えた年
北京市	15,974	2,152	2010年
天津市	16,702	1,517	2010年
河北省	6,421	7,384	
山西省	5,637	3,648	
内モンゴル自治区	11,432	2,505	2012年
遼寧省	10,506	4,391	2013年
吉林省	8,083	2,752	
黒竜江省	6,323	3,833	
上海市	15,651	2,426	2010年
江蘇省	13,178	7,960	2012年
浙江省	11,748	5,508	2012年
安徽省	5,523	6,083	
福建省	10,186	3,806	2014年
江西省	5,574	4,542	
山東省	9,783	9,789	
河南省	5,967	9,436	
湖北省	7,583	5,816	
湖南省	6,470	6,737	
広東省	10,187	10,724	2014年
広西チワン族自治区	5,313	4,754	
海南省	6,248	903	
重慶市	7,686	2,991	
四川省	5,650	8,140	
貴州省	4,250	3,508	
雲南省	4,381	4,714	
チベット自治区	4,667	318	
陝西省	7,552	3,775	
甘肅省	4,251	2,591	
青海省	6,361	583	
寧夏回族自治区	6,700	662	
新疆ウイグル自治区	6,497	2,298	
2014年の1人当たりGDPが1万米ドル超の行政区画合計		40,989	
総計		136,246	

(注) 1人当たりGDP(米ドル)は各年の域内総生産を各年末の人口で除して算出。各年末の為替レートで米ドル換算。

(出所) 中国国家統計局、Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

図2：アジア主要各国・地域への中国人旅行者数



(出所) 日本政府観光局資料より野村アセットマネジメント作成